

東みよし町立昼間小学校の取組について(会場校研究報告)

会場校研究主題

未来を切り拓く情報活用能力の育成を目指した教育活動の推進
—一人一人のよりよい学びをめざし、考えを広げる教育活動の充実—

1 はじめに

本校は、これまで、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標として、分かる・できる喜びを実感させることで学習意欲を高め、基礎・基本的な知識・技能の習得を図り、様々な活動を通して思考力・判断力・表現力を育成してきた。また、一人一人の子どもを大切にして、それぞれのよさを伸ばす指導やわかる授業・楽しい授業の創造を目指して、実践的研究を行ってきた。

令和5年度からは、研究主題を「未来を切り拓く情報活用能力の育成を目指した教育活動の推進」として、学習の基盤となる情報活用能力の育成に取り組んできた。全ての教科・領域の中で、言葉や映像のやりとりの頻度を多くして、情報活用能力が活かされる授業を展開することを努力目標としてきた。また、GIGA端末については、1人1台のICT環境を生かし、ロイロノートや思考ツールを中心とした授業改善に取り組むための授業研究を実施してきた。

2 研究主題について

(1) 研究主題の決定

令和5年度は、徳島県小学校教育研究会情報教育部会の「未来を切り拓く情報活用能力の育成を目指した教育活動の推進—1人1台端末環境における『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実—」という研究主題を受けて、会場校研究主題は、「未来を切り拓く情報活用能力の育成を目指した教育活動の推進」に決定し、秋季研修会に向けての校内研修や授業実践を進めてきた。

令和6年度は、メインテーマは令和5年度と同じだが、サブテーマとして、「一人一人のよりよい学びをめざし、考えを広げる教育活動の充実」を追加し、さらに、個別最適な学びや協働的な学びを充実させることに重点を置いて取り組むことにした。徳島県小教研情報教育部会のサブテーマを参考に検討を行い、会場校のサブテーマを決定

した。

(2) 研究の柱(3領域)

徳島県小教研情報教育部会の研究内容と同じで、本校の研究の柱も次の3つに設定した。3つの領域ごとに各学年の児童の実態に応じて、重点的に指導を行い、児童の情報活用能力を向上させる。

- ①情報モラルを育成する教育活動の推進(情報モラル)
- ②問題解決・探究の端末活用に関する教育活動の推進(情報活用)
- ③プログラミング的思考を育成する教育活動の推進(プログラミング)

なお、3領域の授業の中で、必要に応じて学校放送番組を効果的に活用した実践を行うこととする。

3 研究の実際

(1) 令和5年度秋季研修会に向けて

令和5年度からの研修方法として、毎週火曜日と木曜日の放課後に週2回の校内研修を行い、研修時間を確保した。ロイロノートや思考ツールを活用した授業研究を全学年で行い、研究授業を各学年2回ずつ実施した。事前に、ICT教育支援員による研修を受けて、教員が使い方を理解し、授業で日常的に活用できるように配慮した。

学習指導案は、単元計画や本時の計画をロイロノートのプロット図を活用して作成することにした。指導案は印刷・配付をせず、チャットを使ってパソコン上で事前に見てもらうことにした。

研究授業の様子は、ビデオカメラで撮影し、参観できなかった教員もチャットで視聴できるように配慮した。授業終了後、参観した教員各自がジャムボードのPMIシートに、よかったところ、改善するとよいところ、気になるところ・質問を書き込み、共有した。

夏休みには、2学期から使用するクロムブックに備えて、Google for Educationの研修をICT教育支援員から受け、ワークショップも行いながら、いろいろなツールの効果的な使い方を学んだ。

2学期には、秋季研修会に向けて、公開授業を行う3・5・6年の授業者とともに、授業研究や準備等を行うために、学年ごとの校内の担当者を決めて協力した。各学年で話し合った内容や進行状況等について、全体の場でも報告し合い、共通理解して、全教職員で良い授業になるように取り組んだ。

学習指導案は、「校内研究主題とのかかわり」については文章で表記し、単元計画と本時の計画については、ロイロノートのプロット図を使って作成することにした。単元計画については、参観者がスマートフォン等で見やすいように、指導案にQRコードも掲載した。

(2) 令和5年度秋季研修会

秋季研修会では、3・5・6学年で総合的な学習の時間の公開授業を行い、徳島県内から37名の参加者があった。また、授業研究会は、体育館で3つの学年がいっしょに協議した。

第53回徳島県小学校放送・情報教育秋季研修会(11月2日) 公開授業

①情報モラル

3年 総合的な学習の時間 「メディアから考えよう」

②情報活用

5年 総合的な学習の時間

「一人一人が大切にされる避難所について考えよう」

③プログラミング

6年 総合的な学習の時間 「未来のふるさとを考えよう」

◎授業研究会での授業者の説明等(一部抜粋)

①情報モラル(3年)

児童がソーシャルネットワークの善き使い手となり、メディアリテラシーの資質能力を育成することで、情報と向き合い、メディアとのつきあい方を考えて行動する力を身につけさせたい。

家庭で撮られた写真の意図を考える活動で、児童は写真を見て、撮影者の意図を考えて読み取っていた。表現の仕方を考えるときに、人にはアドバイスできるが、自分の写真では撮り方がわからない児童が多い。

②情報活用(5年)

防災学習では、「災害について知る」「できることを考える」「自分たちの考えや学びを発信する」ことを進めてきた。避難所で必要なものを、子ども、女性、高齢者、障がいをもつ方の4つの立場から考えて調べてから、話や意見を聞いた。

情報を収集し発信するには個人差があり、意見を言うために引き出しが必要で、どんな支援が効果的かを知りたい。

③プログラミング(6年)

プログラミング活動を通し、問題解決能力を身につけさせたい。未来の東みよし町の魅力や活力について考え、それを表現できる施設をプログラミングで考えさせた。

マインクラフトで作ったものを紹介し、創造性や協働性も高まってきたが、言語の習得に時間がかかり、ブロックの意味を理解することが難しく、プログラミングに個人差がある。

※秋季研修会の詳細については、徳島県小学校教育研究会情報教育部会が発行している「徳島放送情報教育No. 65」の14～36ページを参照

(3) 令和5年度秋季研修会を終えて

①成果

全学年でロイロノートを活用した授業づくりを行うことで、教職員間でアイデアを共有したり、アドバイスをしあったりできた。

思考ツールを目的に応じて、様々な教科で活用する場面が増え、整理・分析する力が高まり、話し合いや協働的な学びの場面が増えた。それによって、教師も児童もクロムブックやロイロノート、思考ツールの使い方に慣れてきた。

公開授業では、3・5・6年の総合的な学習の時間において、ロイロノートや思考ツール、マインクラフト等を効果的に使って、協働的な学びの授業を参観していただくことができた。

授業研究会では、3つの学年同時にパッドレットを使って、多くの参加者から授業等についての質問や意見をいただき、授業者や教員が回答や説明をさせていただくことができた。

②課題

さらに思考ツールの効果的な活用についての研修が必要なので、講師を招いて、詳しく指導をしていただく。情報活用だけでなく、情報モラルやプログラミングについても対面やオンラインでの研修を行う必要がある。

令和6年度において、会場校研究主題のサブテーマや研究の視点を決めて、研究を深めていく。

児童の実態を把握して、今後の指導に活かすため、情報活用能力アンケートを作成し、実施する。

情報活用能力年間指導計画の見直しを低・中・高学年に分かれて1学期に行ったが、研究実践の結果をふまえ、令和6年度に向けて、再度見直す必要がある。

週2回行っている校内研修の年間計画の内容を、随時に追加修正して内容を充実させる。

(4) 令和5年度秋季研修会後の取組

各学年の思考ツールを使った1・2学期の実践を、思考ツールごとにジャムボードのシートにまとめた。

情報モラル・プログラミングの授業のアイデア出しをジャムボードのシートを使って、低・中・高学年別に行った。

児童の情報活用能力段階表(基本的な操作スキル・探究スキル・プログラミングスキル・情報モラルスキル)を作成し、それを使って、学級担任が児童のスキルを項目ごとに4段階で評価した。

研究の3領域について、情報活用能力アンケートの項目を低・中・高学年別に検討してフォームで作成し、2月末に各学年のクラスルームに入れたフォームのアンケートで、児童各自が自己評価を行い、回答した。

それらの調査結果によって考えられる、児童の情報活用能力の実態からの課題は次の5点である。

- ①情報収集を適切に読み取れていない。
- ②集められた情報から、分類・整理する力が弱い。
- ③探究スキルに課題が残る。
- ④メディアバランスが弱い。
- ⑤思考ツールの目的に応じた使い方ができていない。

また、研究の3領域について、それぞれの講師を招いて、対面やオンラインで講義を受けたり、ワークショップを行ったりして、理解を深めた。

さらに、第54回放送教育研究会徳島大会並びに第54回徳島県小学校放送・情報教育研究大会での1～6年の公開授業の領域を児童の実態等を考慮して決めた。

そして、令和6年度の学級担任が授業の指導案を作成するための資料として、令和5年度の取り組みや児童の実態等を文章にまとめて保存し、スムーズに引き継ぎができるように配慮した。

◎研究のキーワード

- ①情報モラル
「責任」「ルールを守る」「ネットワークの善き使い手」
- ②情報活用
「情報の収集・整理・分析」「学ぶための技を身につける」
- ③プログラミング
「良さ・便利さ・おもしろさに気づく」「実生活の中で役立てる」

◎6年間で身につけさせたい力

3領域ごとに出した「研究のキーワード」をもとに、次のように、児童に「6年間で身につけさせたい力」を設定し、研究実践に取り組むことにした。

- ①情報モラル
「ネットワークの善き使い手になるため、責任を持った言動ができる。」
- ②情報活用
「学ぶための技を身につけ、自分の考えを形成することができる。」
- ③プログラミング
「プログラミングの良さ・便利さ・おもしろさに気づき、実生活の中で役立てることができる。」

◎研究仮説

令和5年度は、全学年で統一された学習ツールとして、ロイロノートや思考ツールを活用して、各学年や各教科で授業スタイルを模索し、単元の中で探究を行う教育活動を行ってきた。しかし、児童の探究スキルにいろいろな課題が見られたので、次のような仮説を設定した。

- ①統一された学習ツール(ロイロノート)を活用し、普段の授業の中で個別と協働の学びを自己調整しながら繰り返し行うことで、収集した情報をもとに思考ツールを選択し、根拠をあきらかにすることができるのではないか。
- ②比較・整理・分析するための視点を明確にすることで、自分自身の考えが広げられ、目的に応じた思考ツールの使い方を繰り返し行うことで、探究する力に高まりがみられるのではないか。
- ③情報モラル教育やデジタルシティズンシップ教育の視点から、集められた情報を読み解き、正しい情報である根拠を明らかにすることで、自分の考えに根拠をもち、情報のよき発信者となるための資質・能力が高まるのではないか。

以上の3つの仮説から、本校としての学びを深めていくことで、一人一人のよりよい学びから協働の学びへとつながり、考えを広げられる児童の育成へと繋がるのではないかと考えた。

◎研究の視点

研究主題や「研究のキーワード」、「児童に6年間で身につけさせたい力」等をもとに、3領域ごと、次のように研究の視点を設定し、さらに、研究実践に深く取り組むことにした。

①情報モラル

生活の中で、安全なインターネット等の使い方を考え、自分で意思決定をして、話し合う中で責任を持って、情報の善き使い手になることができたか。

②情報活用

目的に応じて、思考ツールを活用して、思考スキルを高め、自分の考えを広げ、意見を共有し、協働的な学びが深まったか。

③プログラミング

自分で作成したプログラムの手順や組み合わせ方を考え、発表や意見交流をする活動は、プログラミング的思考や実生活で役立つことにつながったか。

(5) 令和6年度1学期前半の取組

令和6年度になって、児童の思考スキルを高めるために、月曜日から木曜日までの朝の活動の時間(15分間)に、「スプレッドタイム」として、思考ツールを活用した学習を開始した。短い時間を有効に活用し、くり返し行うことで、思考スキルを高めたい。

児童に育てたい思考スキルとして、比較する(ベン図)、多面的に見る(くま手・フィッシュボーン)、分類する(XYWチャート)、構造化する(ピラミッドチャート)、広げる(イメージマップ)、理由付け(クラゲチャート)の思考スキルの中から選ばれた思考ツールを使って4日間続けて行う。学級担任が児童の実態に合ったテーマを選んで活用している。

また、校内の各学年の授業協力者を決定し、指導案の形式を統一し、協力しながら協議や検討を進めてきた。各学年ごとに学級担任が助言者や徳島県小教研情報教育部会の授業協力者の方とオンラインで連絡をとりながら、指導案や授業の流れ等について、指導をしていただいた。

4 おわりに

令和5年度の4月に急きょ、本校が令和6年度の県統一大会の会場校となることに決定されてから、約1年2か月の短い期間での研究実践である。さらに、校舎改修のため、2年目の11月ではなく、6月に研究大会を開催することになり、まだ研究実践の途中であるが、今までの研究実践についての発表となった。今後、さらに研究実践を続けて、深めていきたい。

最後に、本校の研究に際して、ご指導ご協力いただいたすべての皆様に厚くお礼を申しあげる次第である。